

## 第4学年 国語科学習指導案

日時 平成26年10月10日(金) 5校時  
場所 4年1組 教室  
児童 4年1組 男子15名 女子14名 計29名  
指導者 金野 由香里

- 1 単元名 説明のしかたについて考えよう
- |      |       |                |            |
|------|-------|----------------|------------|
| 学習材名 | 中核学習材 | 「アップとルーズで伝える」  | (光村図書 4年下) |
|      | 補助学習材 | 「くらしの中の和と洋」    | (東京書籍 4年下) |
|      |       | 「手で食べる、はしで食べる」 | (学校図書 4年下) |
|      |       | 『「便利」ということ』    | (教育出版 4年下) |

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、3年生の時に、学習材「すがたをかえる大豆」「くらしと絵文字」において、「話題提示—説明—まとめ」という「はじめ・中・終わり」の文章構成、身近で単純なものから段階的で複雑なものへと説明が展開される説明の仕方、段落の先頭におかれた中心文の役割など、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら読むことを学習した。

また、4年上の学習材「動いて考えてまた動く」において、「結論—理由—結論」という「はじめ・中・終わり」の文章構成、絵と文章を対応させて読むことを学習した。

これらの学習を通し、児童は、各段落において中心となる語や文を見つけたり、文章構成や表現様式に目を向けたりすることができるようになってきた。しかし、筆者によって事実や意見の取り上げ方など、表現の仕方が異なる文章に対し、要点や細かい点に注意しながら読む力はまだ十分に身に付いていない。

#### (2) 学習材について

本単元では、教科書に掲載されている共通の学習材「アップとルーズで伝える」の他に、他教科書の学習材を3つ取り上げ、説明のしかたについて考えていく。

「アップとルーズで伝える」は、テレビと新聞という普段よく目にしているメディアを取り上げ、送り手が目的に合わせて、「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えていることを説明した文章である。二つの技法である「アップ」と「ルーズ」について、対比的に分かりやすく述べられており、説明のしかたの工夫の一つに「対比」という方法があることを初めて学ぶのに適している。また、写真と文章を対応させながら効果的に説明をしている点、類比的な例として新聞を取り上げて説明している点など、随所に筆者の説明の工夫がみられる。

「くらしの中の和と洋」は、暮らしの基本である「衣・食・住」の中から、「住」の和室と洋室を取り上げて、「すごし方」「使い方」の観点から対比している。これにより、「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さが分かりやすく説明されている。最後に「衣」と「食」の面で話題作りをしている構成も、「アップルーズで伝える」と似ている。「序論—本論—結論」という「はじめ・中・終わり」で構成され、本文部分は更に3つに分けられている。説明的な文章の典型的形態で全体構造がとても捉えやすくなっている。

「手で食べる、はしで食べる」は、日本人や東南アジア人の主食である米を、「米の形」「性質の違い」「食に対する考え方の違い」の観点で対比している前半部分と、はしを使って食べる習慣やはしの使い方や形について、様々な国を取り上げて説明をする後半部分で構成されている。段落同士が対比しているのではなく、一つの段落の中に対比表現が取り入れられている。そのため、対比にも様々な表現の仕方が理解できる。また、後半部分の事例は、はしの使い方や形の観点で、日本と韓国・中国・ベトナムなど、いくつかの国を比べているため、3つ以上の事例を比べるものは対比ではないことを理解するのに適していると思われる。

『「便利」ということ』は、普段何気なく使っている道具に目を向け、「誰にとって便利で、誰にとってそうではないのか」について、家のチャイムや歩道橋などを取り上げ、説明をしている。対比表現は使わ

れていない。対比とは、違いをはっきりとさせるために2つの事例を比べることであって、1つのものもつ利点と欠点を説明するものではないことを理解するのに適していると思われる。

### (3) 指導にあたって

本単元においては、「段落相互の関係や、文章全体における段落の役割を考えながら読む力」「説明の仕方の工夫を考えながら読む力」を付けたいと考え、説明的な文章を読んで、その内容や表現の仕方などについての感想などを交流する言語活動を設定する。筆者は、どのような説明の仕方によって伝えたいことを伝えているのか、それに対しどのような感想をもったのかなど、説明の仕方の工夫を考えながら読んだ読みの交流を図るためである。

第1次では、3年生の時に「せつめい文こうりやく本」を作る学習を通し、説明の仕方について学習したことを想起させ、今回は「アップとルーズで伝える」の学習材の他、自分で選んだ学習材を使って、説明の仕方の工夫を考えることを確認する。

第2次では、「アップとルーズで伝える」を中心に、対比を中心とした段落相互の関係、写真と文章の対応など、説明の仕方の工夫を捉えさせる。その後、ジャンプの課題として、自分の選んだ学習材を読み、「対比」や「対応」は、どこで、どのように使われているのかを、筆者の考えと関連づけて考えさせる。

第3次では、自分が選んだ学習材にはどんな説明の仕方の工夫があったのかを、感想を交えて交流させる。「対比」や「対応」などの表現はあったのか、それは妥当か、その他にどんな工夫がみられたかなどを交流する中で、筆者の伝えたい内容によって説明のしかたが違うことや、それぞれのよさについてを振り返らせ、今後の「読むこと」や「書くこと」の活動に対する意欲につなげたい。

## 3 単元の指導目標と評価規準

観点	目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	説明的な文章を、対比表現を見つけたり、写真と文章を対応させたりしながら、興味をもって読んでいる。	対比や対応などの説明の仕方の工夫を捉えながら、意欲的に説明的な文章を読んでいる。
読む能力	段落相互の関係や、文章全体における段落の役割について考えたり、説明の工夫に目を向けたりしながら、文章を読むことができる。 (1) イ・エ	文章全体における段落の役割について考え、対比を中心とした段落相互の関係や、写真と文章の対応などを理解しながら、文章を読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	接続語や文末表現などの表現の工夫を理解することができる。 (1) イ(ク)	いくつかの説明文を比べる中で、様々な接続語があること、文末表現に違いがあることを理解している。

## 4 単元の「学びのプロセス」の構想（全7時間）

### 【指導過程】

### 【問題解決の流れ】と【主な学習活動】

第1次(1時間)

単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。

【関心・意欲・態度】

#### 【主な学習活動】

- ①・「すがたをかえる大豆」の学習で、説明の仕方について考えたことを想起する。
- ②・「アップとルーズで伝える」の他、自分の選んだ学習材を使って、説明の仕方の工夫を考えていく学習の見通しをもつ。

説明のしかたについて考えよう。

- ①3年生の時にも「せつめい文こうりやく本」を作って、説明のしかたを考えたな。
- ②「動いて考えてまた動く」で学習したことが使えるかな。
- ③どんな説明のしかたの工夫があるんだろう。

◆学習したことを活かし、説明的な文  
◆学習材を読み、説明のしかたの工夫を

章を読む。【ジャンプの課題】  
見つけ、使われ方やよさについて、感想を交えて交流する。

### 第2次（4時間）

「アップとルーズで伝える」を読み、説明的な文章の文章構成や書き方の工夫について理解し、その後、自分の選んだ学習材を読み、説明のしかたの工夫を読む。

【読む能力】

【言語についての知識・理解・技能】

#### 【主な学習活動】

- ②・「アップとルーズで伝える」を段落相互の関係を考えながら読み、大まかな文章の組み立てと筆者の伝えたいことについて考える。  
・自分が選んだ学習材を読み、話題の内容と、筆者の伝えたいことを読む。
- ③・「アップとルーズで伝える」の④～⑥段落を読み、④・⑤段落が対比関係であることをつかむ。  
・自分が選んだ学習材を読み、対比関係があるかどうかなど、説明の仕方の工夫を考える。【本時】
- ④・「アップとルーズで伝える」の①～③段落を読み、①・②段落が対比関係であることをつかむ。  
・①～③段落、④～⑥段落をそれぞれ文章構成図で表す。  
・自分が選んだ学習材を読み、文章構成図で表す。
- ⑤・「アップとルーズで伝える」の④～⑥段落と説明の写真の対応関係をつかむ。  
・自分が選んだ学習材を読み、対応関係があるかどうかなど、説明の仕方の工夫を考える。

### 第3次（2時間）

交流を通し、学習や単元で身に付けた力について振り返る。

【関心・意欲・態度】

どんな説明のしかたなのかな。

- ①「対比」を使うと、2つの違いがはっきりするね。筆者の言いたいことがよく分かるよ。
- ②写真を説明している文章があるよ。写真を使って説明をすると、筆者が伝えたいことがはっきりするね。
- ③筆者が伝えたいことを伝えるために、説明のしかたを工夫するんだね。説明の仕方にもいろいろな工夫があるんだな。

#### 【主な学習活動】

- ⑥・自分が選んだ学習材を読み、説明のしかたの工夫と、感想をまとめる。（ワークシート）
- ⑦・筆者の伝えたいことによって、説明の仕方の工夫に違いがあることを、感想を交えながら交流する。

新しい説明の仕方が分かったよ。

- ①「対比」や「対応」も説明のしかたの工夫なんだね。他の文章にも使われているのかな。
- ②「対比」が使われていない文章もあったよ。伝えたいことによって説明のしかたが違うね。
- ③「対比」や「対応」を使って文章を書いてみよう。

（あすねタイム・家庭学習）

他の学習材にも挑戦してみよう。

①これは対比表現が使われていないね。どんな説明の仕方をしているのかな。

②新聞記事と写真も対応しているのかな。調べてみよう

## 5 本時の指導 (3/7)

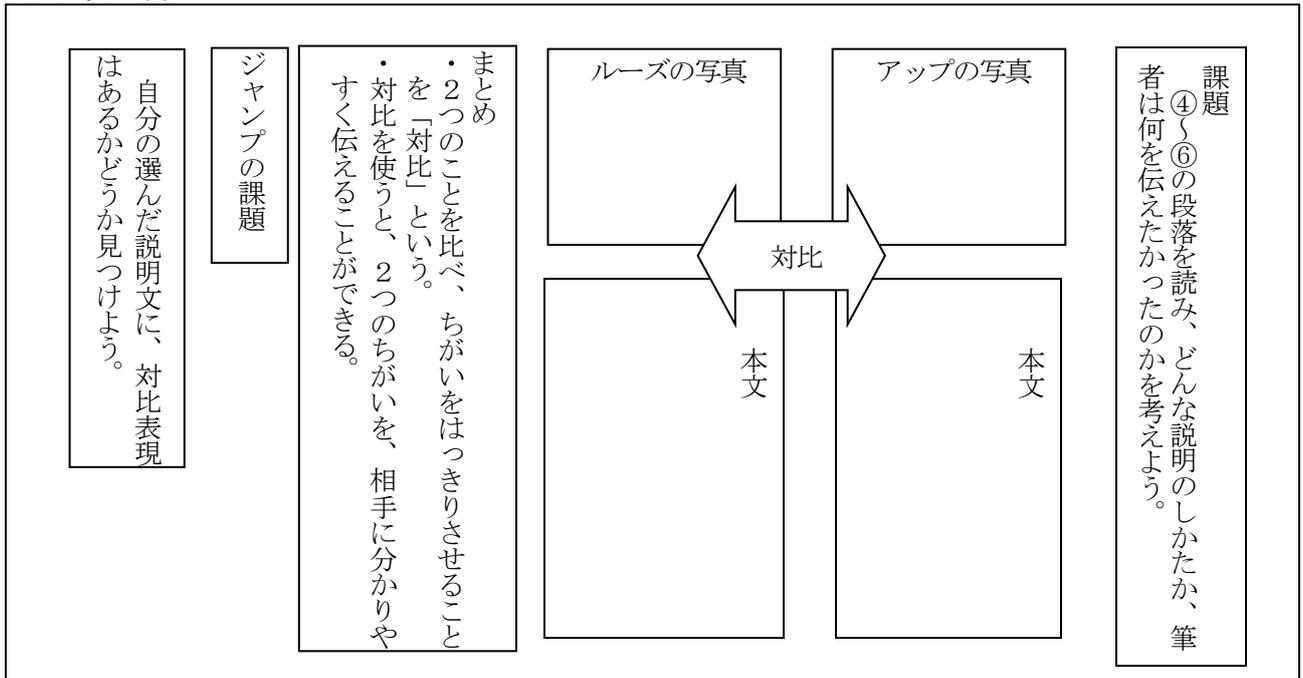
### (1) 目標

○段落同士の対比を考えながら読み、対比することにより、違いをはっきりとさせながら伝えていることを理解することができる。

### (2) 展開

段階	学習活動	学習内容	教師の支援と評価 ★手立て2 (対話) 手立て3 (課題設定と評価活動)
つかむ 5分	1 本時の学習課題を確認する。  課題 ④～⑥の段落を読み、どんな説明のしかたか、筆者は何を伝えたかったのかを考えよう。		★④～⑥の段落の中に、どんな説明の仕方の工夫がかくされているのか、それはどんなことを伝えるために使われているのかを学習することを確認する。
学び合う ふかめる 35分	2 段落同士の対比関係に気を付けながら読む。  ◆個人→全体 ・「アップ」と「ルーズ」について、それぞれ「伝えられること」と「伝えられないこと」をまとめる。 ・④・⑤段落はどんな関係か。 ・なぜ筆者は、アップとルーズを比べて説明したのか。  3 自分の選んだ学習材を対比関係に気を付けながら読む。【ジャンプの課題】  ジャンプの課題 自分の選んだ説明文に、対比表現はあるかどうか見つけよう。  ◆個人 (グループ) ・対比はあるか、ないか。 ・どこに、どのように対比が使われているか。 ・本当に対比表現か。  まとめ ・2つのことを比べ、ちがいははっきりさせることを「対比」という。 ・対比を使うと、2つのちがいを、相手に分かりやすく伝えることができる。	○対比 ○筆者の意図	・文章をよく読み、「伝えられること」と「伝えられないこと」にサイドラインを引いてからワークシートに書くように支援をする。  ★「2つのものを比べていること」「違いをはっきりとさせていること」という対比の2つの観点を捉えさせるために、複数の学習材を用意する。 ・対比が使われている箇所や伝えたいことに付箋紙を貼りながら読ませる。 ・選んだ学習材が同じ者同士でグループを作る。 ★個人作業だが、分からないことは友達に相談してもよいことを確認する。  〔評価〕 学習材を読み、対比を使って説明をすることにより、2つの違いを相手に分かりやすく伝えることができることを理解している。  【読むこと】 〔評価方法〕 観察・ワークシート
ひろげる 5分	4 学習を振り返る。 ・学習をして分かったこと ・出来るようになったこと ・感想や次時への意欲  5 次時の学習内容を確認する。		★課題が解決できたか、友達との関わりによって何を学んだか、今後どんなことを学んでみたいかの観点で振り返らせ、次時への意欲につなげる。

(3) 板書



(4) 座席表

黒板

